

『ゆとり教育』について

私はこの仕事をしていると、

よく友人に『ゆとり教育』についてコメントを求められる。

「『ゆとり教育』ってどうなのよ??」

私が答える前に友人に『ゆとり教育』について逆に聞き返す。

「『ゆとり教育』ってどう思っているの??」

否定的な意見が多数を占める。

「台形の公式を習わないんだろう??それで大丈夫なの??」

「円周率って『およそ3』で計算するんだろう??簡単で言いよなあ〜」

その否定的な意見はマスコミの内容と同じだ。

子どもがいない独身の人では情報が少ないので、

仕方ないことなのかもしれない。

しかし教育に深く関わる当事者である保護者に聞いても同意見なのだ。

塾に通わしている保護者のほとんどが『ゆとり教育』に否定的な意見が多い。

マスコミでは散々に叩かれている「ゆとり教育」だが、

私は『元々の』『ゆとり教育』には賛成である。

80年代。

教育と言うのは公式に当てはめて答えを出す教育、

詰め込み式の教育だった。

公式とそれに代入するだけの力さえ持っていれば良かった。

だから数学ですら暗記科目と言われるほどで、

とにかく覚えれば良かった。暗記すれば良かった。

また社会もそういう人間を欲しがっていた。

バブル絶頂期。

命令に忠実で、与えられたことをきちんとかなす人間が求められていた。

90年代。

時代は変化した。バブルもはじけた。

命令に忠実で、与えられたことをきちんとかなす役割は、

給料がかかる人間に代わりコンピューターが担った。

社会は忠実な人よりも考えて行動を起こす人間を欲しがった。

しかし教育は依然として詰め込み式教育 + 偏差値教育だった。

考えられる人を育成する教育にしよう。

「ゆとり教育」の考えはそんな中、生まれたのだ。

詰め込み式の教育は減らしましょう。

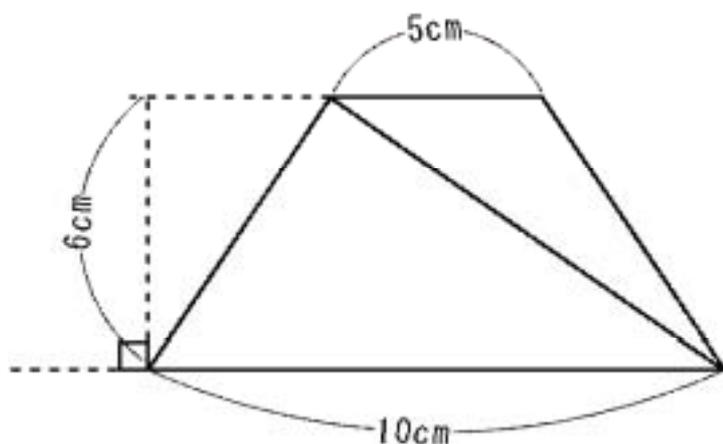
その代わりに、考える時間を増やしましょう。

そして考えられる人間を作りましょう、ということなのだ。

(例 1)

台形の公式は教えないようにしましょう。

その代わりに、台形に対角線を引いて、三角形を二つ作って、その三角形を二つを求めることで、台形の面積を求めよう。



今までなら、

$$(上底 + 下底) \times 高さ \div 2$$

$$(5+10) \times 6 \div 2 = 45\text{cm}^2$$

これからは、台形を二つの三角形として考えて求める。

三角形の面積の公式は・・・底辺 × 高さ ÷ 2 なので・・・

の三角形は、

$$5 \times 6 \div 2 = 15$$

の三角形は、

$$10 \times 6 \div 2 = 30$$

+ = 台形 になるので・・・

$$15 + 30 = 45$$

つまり台形の面積の公式を覚えなくても、
三角形という基本的な図形をマスターし、
それを応用することによって、解けるのだ。
そこを考える力として応用したいのだ。

(例 2)

円周率は「およそ 3」にしましょう。

円の面積や円周を求める計算が楽になるからです。

計算が楽なり代わりに、

円の持っている特徴や円の面白さに触れましょう。

円というのは特別な図形のなので、

そんな円について考えましょう、ということなのだ。

つまり単に公式を当てはめて

計算をして答えを出す教育ではなく、

今ある知識を活用したり、

公式以上に大切なことを考えたり、

考える余裕のための「ゆとり」だったのだ。

その教育こそが文部科学省が目指していた

『元々の』『ゆとり教育』だったのだ。

しかしマスコミや教育産業関係者は、「ゆとり教育」を危ぶんだ。
授業数が減ったことに過敏に反応し、
あまり教えない「ゆとり」の方に解釈したのだ。
私は「ゆとり教育」という名前が文部科学省の最大のミスだと思う。
台形の公式を教えないと、台形が分からなくなる。
円周率が「およそ3」だと小数のかけ算ができなくなる。
親への不安をあおった。
その方が教育産業は潤うからだ。

さらに一番困ったのが現場の学校の教師だ。
現在の教師は詰め込み教育 + 偏差値教育を受けてきた先生だ。
その先生が自分の教え方を、
「ゆとり教育」が目指す『考える教育』をしろ
と急に変わるといわれても難しいだろう。
それに「総合的学習」も同時期の導入だったので、
その変化に先生は着いていくだけで精一杯だったと思う。
文部科学省も「ゆとり教育の導入が早すぎた」というのは、
現場の先生による指導の移行のことを指しているのだと思う。
「ゆとり教育」を導入していくには、
まず学校教師の指導改革からゆっくり時間をかけるべきだった。
文部科学省導入が時期尚早だった。

学校教師の指導改革をし、
考える教育、発見の教育を目指して行って欲しい。
急速な高齢化を世界で一番受けてしまう日本。
少子化社会で高齢者を支えながら、
生きていかなければならない子ども達に、
私たちが与えられる最上の知恵が「考える力」だと思う。
私は『ゆとり教育』の持つ可能性に対して大いに期待がある。
(ただ名前の変更を求める。『考える教育』等に改名することを望む)
『ゆとり教育』の道は間違っていないと思う。
是非、元々目指していた理想の教育になるように、
『ゆとり教育』をみんなで育てて行ってほしい。